

教育・文化・スポーツ

「ジュニア救命士」養成制度の導入について



山北 正久 議員

国内の心臓突然死による死者は年間6万人以上にのぼり、自宅での発生が多いが、さまざまな場所で発生している。偶然にも発生場所に居合わせた人の適切な救命活動により、救える命があることから、命の大切さや救命方法の重要性を少年期から根付かせる目的で、「ジュニア救命士」養成制度を小学校5、6年生に導入するよう提案するがどうか。

答

緊急事態に遭遇したとき、迅速な救急蘇生により、尊い人命が救われることは認識している。学習指導要領では、小学校5、6年生において止血法等の処置や重大なけがへの対応、また、中学校では応急手当の知識やAEDの使用方法を学ぶようになっている。「ジュニア救命士」養成講習については、県央消防署等からの情報を得ながら、研究したい。

教育・文化・スポーツ

2学期制から3学期制への移行に向けて!!



永尾 高宣 議員

2学期制導入から今年で12年目を迎えるが、学期制についてのアンケート調査結果では、3学期制支持36%、2学期制支持29%となっており、保護者等からは3学期制への見直しを求める声が多い。今後は2学期制のメリットを残し、学力のみならず、文化、スポーツ、地域の伝統行事への積極的な参加など、「新たな3学期制」に移行し、強い「大村っ子」を育成すべきではないか。

答

学期制の見直しについては、学期制検討委員会からの答申を年内に受け、今年度内に教育委員会としての結論を出す予定である。2学期制、3学期制のいずれに決まっても、学期制のあり方や今後の見通しについては、保護者、教職員、地域には丁寧に周知したい。また、今後少子化が進む中、足腰の強い子どもたちを育てる必要があると思っている。

都市整備

交通行政



村上 信行 議員

公共交通空白地域対策として7月から試行されている松原・福重地区の乗合タクシーと荒平・水計地区のデマンドタクシーの利用状況はどうか。また、各地区の利用者と協議する場として、利用者協議会を設置し、話し合うべきではないか。

答

松原・福重地区の乗合タクシーの利用状況（7月10日以降）は、7月は延べ70人、8月は延べ115人が利用しており、荒平・水計地区のデマンドタクシーの利用状況（7月12日以降）は、7月は利用がなく、8月は延べ8人の利用であった。また、利用者協議会の設置については、利用者の声を広く捉えて運行することが重要であるので、研究を進めたい。



都市整備

新幹線の諸問題



村上 信行 議員

長崎県知事や沿線市長は、フリーゲージトレインの開発は困難だとして、全線フル規格での整備を要望している。全線フル規格化に当たっては、佐賀県側のみ新たな整備が必要となるが、完成時期はいつになるのか。また、木場トンネル口付近においては、今後の工事施工に伴い、住民からの相談窓口として現場事務所を設置すべきではないか。

答

新鳥栖から武雄温泉までの区間をフル規格で整備する場合、ほかの事例を参考にすると、方針決定から開業までには14年程度を要する。また、鉄道・運輸機構によると、岩松町と小路口町に現場事務所を設置しているため、新たに設置することは考えていないが、現場代理人が常駐する詰所の設置に向け調整しているとのことである。